

市川レポート

2026年10月FOMCプレビュー～今回の注目点を整理する

- 弊社は政策金利について、大方の見方と同じく据え置きを予想するが、全会一致となるかに注目。
- ウォーシュ議長の記者会見は前回同様簡潔なものとなり、発言に目新しい材料はないと予想する。
- 今会合はノーサプライズで利上げは物価指標や原油次第、弊社は来年3月の利上げ予想を追加。

弊社は政策金利について、大方の見方と同じく据え置きを予想するが、全会一致となるかに注目

米連邦準備制度理事会（FRB）は、10月27日、28日に米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催します。今回はFOMCメンバーによる経済見通しや、メンバーが適切と考える「政策金利水準の分布図（ドットチャート）」は公表されないため、FOMC声明と、記者会見でのウォーシュ議長の発言が焦点となります。以下、これらについて、主な注目点を整理していきます。

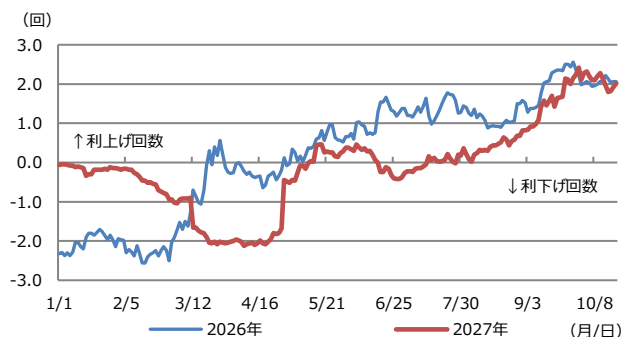
まず、フェデラルファンド（FF）金利の誘導目標（現行3.75%～4.00%）について、弊社は市場の大方の見方と同じく、据え置きを予想しています。なお、直近のメンバーの発言（図表1）からは、利上げペースの考え方にはいづらか差があるように見受けられ、バー理事、ローガン総裁、ハマック総裁らは追加引き締め必要性を強く意識しているように思われます。そのため、FOMC声明では、これらのメンバーの投票行動も注目されます。

【図表1：最近の主なFOMCメンバーの発言骨子】

月/日	メンバー	発言骨子
9/29	バー理事	2%への適時の回帰に向けた明確な傾向は、まだみられない。インフレ率を適時に目標へ低下させるため、さらなる政策調整が必要になる可能性が高い。
	ミネアポリス連銀カシュカリ総裁	(利上げは)オープンな姿勢で臨んでいる。10月27日、28日の会合で追加利上げを決定すべきか、強い意見は持っていない。
10/1	ジェファーソン副議長	経済指標の動向、見通しの変化、リスクバランスを慎重に見極めた上で、今後の政策調整を決定していく必要がある。もう少し時間がかかる可能性がある。
	ダラス連銀ローガン総裁	政策金利の誘導目標レンジをさらに50bpかそれ以上引き上げる必要があると現時点で考えている。
10/8	ウォーラー理事	利上げの実施時期についてはある程度の柔軟性がある。利上げは連続した会合で実施する必要はなく、妥当な期間内に実施されるべきだ。
10/12	グリーンランド連銀ハマック総裁	対応を先送りしてあとで大幅な軌道修正を迫られるリスクを負うより、可能であれば、小幅な調整を比較的速やかに行う方が望ましいと考えている。
10/13	ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁	(年内は)あと1回の利上げが適切との私の見方は変わっていない。(来年は)現時点でこれ以上の対応が必要と考える理由はない。
10/16	ウォーシュ議長	物価の安定を実現すると明確に約束している。今年残りの会合でどのような措置を講じるかについて、現時点で言及することは適切でない。

(注) 2026年のFOMCで投票権を持つメンバー。
(出所) 各種報道を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：市場が織り込むFF金利の変更回数】



(注) データは2026年1月1日から10月20日。フェデラルファンド（FF）金利先物市場が織り込む25ベースポイント（bp、1bp=0.01%）のFF金利変更回数。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ウォーシュ議長の記者会見は前回同様簡潔なものとなり、発言に目新しい材料はないと予想する

次に、ウォーシュ議長の記者会見における発言については、10月16日の国際通貨基金（IMF）・世界銀行の年次総会における発言内容（図表1）と、基本的には変わらない可能性が高いと考えます。ウォーシュ議長は恐らく、物価の伸びが高い状態にあることに言及した上で、物価の安定に最優先で取り組む姿勢を維持し、フォワードガイダンス（金融政策の先行きに関する指針）は示さないことを繰り返し述べるとみています。

なお、前回9月のFOMCでは、FF金利の誘導目標について、2023年7月以来、3年2カ月ぶりに25ベースポイント（bp、1bp = 0.01%）の引き上げが決定されましたが、その後の記者会見は約30分で終了し、2011年の記者会見開始以来、最も短い会見となりました。今回の会見も同様に簡潔なものとなり、ウォーシュ議長の発言に目新しい材料はないと予想されますが、市場はこれらについて、おおむね想定済みと思われる。

今会合はノーサプライズで利上げは物価指標や原油次第、弊社は来年3月の利上げ予想を追加

以上の点を踏まえると、今回のFOMCの結果は、市場にとって「ノーサプライズ」となる公算が大きいと考えられます。一方、FF金利先物市場に目を向けると、25bpの利上げ回数は年内2回（9月の利上げ1回を含むため、年内あと1回）、来年も2回がほぼ織り込まれています（図表2）。これらの織り込みは、ノーサプライズが予想される今回のFOMCよりも、今後発表される米国の物価指標や、原油価格の動向に左右されるとみています。

弊社は米金融政策について、これまで25bpの追加利上げは年内12月のみと予想していましたが、10月19日にこの見方を修正し、来年3月の追加利上げを加えました。この見通しのリスクは物価の上振れであり、中東情勢の緊張と原油の高止まりが長期化した場合は、米国の物価安定に時間を要し、利上げ回数の増加が見込まれます。ただ、現時点で米国の物価の上振れは、サブシナリオと位置付けています。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



三井住友DSアセットマネジメント